

### 第三章 7-1 江戸時代～明治時代の笠井

西暦	和歴	浜松城主	年齢は満年齢で算出した。推定（男性 23 歳・女性 18 歳・第一子誕生とした）
1601	慶長 6	松平忠頼	2 月 堀尾忠氏から引き継ぐ。井伊谷は、近藤秀用が治める。 本田忠勝は桑名の城下町を再建。笠井明神に五石寄贈あり。 伊那備前守 忠次が東海地方の検地奉行となった。
1603	慶長 8	松平忠頼	征夷大將軍徳川家康は江戸幕府を開く。庄屋制度開始。 山下佐治兵衛。高林維兵衛。鈴木権兵衛。
1605	慶長 10	松平忠頼	二代將軍 秀忠就任。駿府城に家康が入る。二元政治。
1607	慶長 12	松平忠頼	角倉了以が天竜川川底工事を命令され実施するも難工事。 笠井村高 332 石（田 9 町畑 30 町）法永寺領 10 石。 定明寺領 3 石 笠井新田領高 323 石（田 23 町畑 17 町 4 反）※毛付 田畑に稲・麦を植え付ける事
1611	慶長 16	水野重仲	貴平村 内藤家文書。毛付高 470,800。取米 235,400 の記録。 1829 年文政 12 年までの 218 年間の記録あり。

1615	元和 1	水野重仲	内藤家に綿栽培の古文書あり。4月大阪夏の陣で豊臣家滅亡。  十七夜観音（笠井新田に豊臣残党永住の伝あり）。
1617	元和 3	水野重仲	藤木村幕府領（遠淡海地志）には、平間村で内名に稻垣久兵衛庄屋が居る。  藤木村に家無し 池田荘 高 13石 4斗 5升 6合。
1619	元和 5	高力忠房	9月に就任 19年間在位。浜松城下町を整備した。  幕府領河西新田 323石（田 217石畑 106石）河西村 332石。
1622	元和 8	高力忠房	浄土宗養円寺を創建空誉深応大徳開山。棟札山下才兵衛建立。
1623	元和 9	高力忠房	榎吉家 25代嫡子 榎吉宣満 榎吉宗兵衛尉（村の境界を決める杭を打つ役目をしていた）。  馬に乗り現地で境界の争いの決定権をもっていた。※尉とは、平安時代の各役所の三等官の別名。  三代家光 20歳。鎖国参勤交代キリシタン弾圧。東照宮を建築。
1624	寛永 1	高力忠房	曹洞宗 常光村 清心寺開創。青山宗俊の父、蟄居。  貴平村の内藤家に、一族 12人家来 30人が同居。

1629	寛永 6	高力忠房	初代 (米保田屋) 法誉道光居士、法永寺に墓。
1633	寛永 10	高力忠房	下石田村 庄屋 初代神谷與平治が誕生。1703 年元禄 16 年没 71 歳 (報徳発祥地の先祖)
1639	寛永 16	松平乗寿	藤原家 朝臣 山下佐治兵衛泰正。山下二郎左衛門泰直。山下三郎泰光。山下忠二郎泰順。 大工 藤原家朝臣 彦左衛門。 鍛冶彦五郎、五郎太夫、五郎左衛門、忝本喜太夫秀光神主。 住吉、雷明神主は山下佐治兵衛が行った。記録あり。
1644	正保 1	太田資宗	2 月から寛文 11 年までの 27 年間在位。三河西尾より来た綿作奨励藍と紫根栽培。 (笠井、豊西、積志、小松、北浜、長上、浜松南部) 松尾芭蕉、誕生。
1648	慶安 1	太田資宗	塩町と肴町商人が笠井村へ出張して販売するのを許可した。 近隣の商人はその土地の特産品を売りながら、塩と海産物を求め集まって来た。 笠井の住民の年貢は畑地だったので金納であった。 店先の賃料を取り、古着、農作物、手造りの生活用品を売る。
1651	慶安 4	太田資宗	47 歳 家光、没。後見人 保科正之は文治政治を行う。

			<p>綿花から種を取り除き、原綿を打ち同方向に繊維を揃えて竹筒に巻き、糸車で撚りながら糸にして巻きとる。</p> <p>糸を数百本揃えて縦糸とし、手織機にかけて横糸を通した<b>白布綿を笠井の市で売った。</b></p> <p>笠井往還に市が賑やかになっていった。川舟と大八車、徒歩で交通の便もよかった。</p> <p><b>3代 榎吉太左衛門尉貞治、逝去。</b></p>
1652	承応 1	太田資宗	<p>隠田（自己申告していないので、検地されていなかった田）が、</p> <p>笠井村検地で発覚して庄屋佐治兵衛は自害。</p> <p>戒名 <b>亮珙院藁誉浄心居士</b> 法永寺に墓。 検地帳の代筆を<b>池田庄三郎</b>が行った。</p>
1656	承応 5	太田資宗	<p>2代 竹山左衛門茂次の分家・<b>孫左衛門</b>。（孫左衛門の子孫から<b>池田庄三郎家光</b>が出る）</p>
1664	寛文 4	太田資宗	<p><b>宗門人別帳</b>（死亡出産の戸籍を寺が行った。）</p> <p><b>檀家制度</b>の始まり豊田郡の住民は豊田郡の寺の檀家となる。</p> <p>寺子屋 6歳から 11歳書を学ぶ、7歳漢学、8歳数学、9歳水泳、13歳画、17歳剣術。</p> <p>庄屋の長男は 20歳で実践経験。</p>

			商人になる為には、12歳で丁稚小僧に出る。
1670	寛文 10	太田資宗	3月8日（来室秀本居士）帯屋初代が源長院の檀家として記帳された。羽鳥村農民。  1596年現成院開祖から74年後。  1683年松島家（羽鳥村庄屋）が、土地建物仏具を寄贈して（龍雲院源長院）開基となる。
1673	寛文 13	太田資宗	本陣（杉浦助右衛門、梅谷市左衛門、杉浦総兵衛、伊藤平衛門、佐藤与左衛門、山口次郎兵衛）  城下町（連尺、伝馬、旅籠、塩、成子坂、七間、神明、板屋、新町、田町、池町、下垂、尾張、肴町、鍛冶、平田、猿屋、榎町、紺屋、利町、大工、早馬、清水谷）
1677	延宝 5	太田資宗	笠井村 家数 89軒  （役家 66軒、上組東 10軒、西 10軒、中組東 12軒、西 12軒、下組東 11軒、西 11軒）  岡部家文書による。
1687	貞享 4		直譽章入居士（2代目米保田屋）、逝去。
1689	元禄 2	青山忠重	古着屋が江戸で 2790人登録。  武士は戦いもなく下級武士の長男以外は、商家や庄屋や本百姓の養子となるものが増えた。

1694	元禄 7	青山忠重	松尾芭蕉 1644 - 1694) 50 歳 逝去
1697	元禄 10	青山忠重	笠井上町春日神社が再建。 4 代 竹山孫左衛門茂家の姉が、岡部与三郎政信に嫁ぎ (賀茂真淵) 幼名 庄助を生んだ
1700	元禄 13	青山忠重	笠井新田 村大木家先祖の戒名あり。3 代 鍛冶屋を営んでいた。(大木随處の先祖)
1702	元禄 15	松平資俊	9 月就任し在位 21 年間。農村の貧富の格差が大きい。 赤穂浪士討ち入り、奈良屋茂左衛門・深川の豪商材木商。
1705	宝永 2	松平資俊	伊勢おかげ参りと旅の講が流行、情報が広く出回る。 信州一掛塚 筏 50 双。 1 日材木 3290 本、江戸へ輸送された
1707	宝永 4	松平資俊	富士山噴火。横須賀藩は福田港建設。(嫁に行くなら福田の河岸へ、お江戸帰りの船が着く) 2 代帯屋 断刀祐切居士、逝去。
1706	宝永 3		3 代 到誉教道居士 逝去。住吉神社の神主は山下佐治兵衛。春日大明神の神主は神谷三郎兵衛。
1713	正徳 3	松平資俊	恒武村 小栗家で藍と綿の栽培の記帳が始まった。石原村 (御嶽神社 創設) 八代将軍吉宗。

1714	正徳 4	松平資俊	池田庄三郎（法性院広誉無涯浄居士） 没、勝彦の祖父。
1717	享保 2	松平資俊	天竜川沿いに換金作物綿が栽培された。小作人が不足、農業をすてて商人へ転身
1719	享保 4	松平資俊	笠井村 皆畑とある。  家数 112 軒  （本百姓 76 軒、人数 756 人（大工 1 人、鍛冶 2 人、紺屋 1 人、医師 1 人、馬 6 頭、山伏 8 人）  1 反は巾 36 cm、長さ 11m 1 反を織るのに 2 日かかった。
1723	享保 8	松平資訓	東岡部家 政信の三女 幸に、笠井村 山下佐治兵衛の子供、山下政孝を婿養子として迎えた。
1725	享保 10	松平資訓	浜松宿本陣・梅谷甚三郎の婿養子に、賀茂真淵 28 歳。
1730	享保 15	松平信祝	江戸幕府より桑名米相場の承認を得た。
1732	享保 17	松平信祝	掛塚船  幕府の御城米、信州の干柿、水引、和紙、遠州茶、繰綿、椎茸、石灰、刃物などを江戸へ運んだ  廻船問屋 18 人、船 38 船の船所有（名主や村役人をしていた）遠州の小江戸と呼ばれた

1733	享保 18	松平 <sup>のぶとき</sup> 信祝	末島 八王子神社 創建
1736	享和 21		4代 要岳宗運居士、逝去。 4代 米保田屋。
1740	元文 5		内山真龍 誕生。 1821年（文政4年）81歳、没。
1741	寛保 1		3代帯屋 白岩徳翁居士、逝去。
1743	寛保 3	松平 <sup>のぶとき</sup> 信祝	羽鳥村 松島家 亥正月写之に、池田庄三郎の名前あり。 後に8代 良司茂岡（歌人、国学者）が写した。
1747	延享 4	松平信復	老中 田沼意次は財政安定に、組合冥加金、町人に新田開発、長崎貿易と年貢米からの脱却を図る 松島右衛門茂岡（良司茂岡）、誕生。
1748	寛延 1		4代 帯屋 利峯道義居士逝去
1751	寛延 4	松平資訓	笠井の市 1, 5, 10, 15, 20, 25日（6斉市） 金指の市 3, 8, 13, 18, 23, 25日 二俣の市 2, 7, 12, 23, 27日

1761	宝暦 11	井上正経	内藤彦端 <sup>げんたん</sup> （俳号 左光）西遠俳句指導者。
1761	宝暦 11	井上正経	13代 内藤市左衛門徳明 家督継ぐ。金指中村市左衛門方救 85歳、没。2代目 方次 家督継ぐ。
1765	明和 2		5代 帯屋 寛室壽延居士、逝去。
1766	明和 3	井上正定	油屋 池田庄三郎勝彦と内山真龍の交流について記載記事あり。
1769	明和 6		高林方朗（みちあきら）、誕生。
1770	明和 7	井上正定	6月遠江国長上郡笠井村春日社明神の神主神谷三郎兵衛は、 藤正清、着風折、烏帽子、狩衣を吉田家 裁許状写から許可される。 小栗廣伴（ひろとも）、誕生。
1774	寛永 3		初代 木俣千代八、誕生。
1777	安永 6	井上正定	羽鳥村 在住後に、池田庄三郎勝定、誕生。勝彦の娘の婿になったと推定？ 66歳で没から逆算した。 池田庄三郎（勝光院清誉祐閑浄心居士）勝彦の父

1778	安永 7	井上正定	大谷村の内山真龍から遠州国学を、 <b>斎藤一渥</b> から易学算学天文を学ぶ。  (池田勝彦、内藤助栄、入野村 竹村尚規)
1779	安永 8	井上正定	木船念仏団、新原念仏団、笠井念仏団との喧嘩あり。  <b>1785 年に 6 年前の復讐喧嘩をする。</b> 実録冊子あり。
1781	安永 10	井上正定	<b>内山真龍</b> 41 歳から 45 歳頃まで、毎年笠井村 池田勝彦家に出講。  (内藤徳明、高林方朗、恒武小栗、近隣の庄屋の子息が学ぶ)  気賀 近藤用随は、蘭草 100 町歩を栽培し畳表作る。
1785	天明 5	井上正定	<b>桑名に米売買会所設置され</b> 、先物取引(一定の期日に現品の受け渡し又は決済を行う約束をした売買取引)を旗ふり通信で各地へ相場の値段を伝えた。 <b>庄屋の米切手。中村市左衛門方章、誕生。</b>
1786	天明 6	井上正定	9 月天明 飢饉百姓一揆。  池田庄三郎、池田庄兵衛、池田庄右衛門、山市屋徳三郎、山下佐治兵衛が襲撃をうけた。
<b>1787</b>	<b>天明 7</b>	<b>井上正甫</b> <small>まさすけ</small>	<b>1 月 28 日に山下庄屋から出火、笠井往還全焼。笠井の古文書と歴史焼失。</b>  笠井往還に新興商人進出のチャンス。 <b>二宮尊徳(金次郎)誕生。</b>

1788	天明 8	井上正甫 <small>まさすけ</small>	森町に山中豊平、9代 池田傳十、初代 山下吉十、誕生。  金指 2代目 酒屋 中村市左衛門・方次、没。
1789	天明 9	井上正甫 <small>まさすけ</small>	木俣千代八は、農家で織った布をぼてふりに一反二反と買い集めさせて笠井の市で売った。  安居院庄七、誕生。
1790	寛政 2	井上正甫 <small>まさすけ</small>	肴町に魚河岸を設置、舞阪で水揚げした魚の売買の特権を与えた。  那須田又八は舞阪で海苔の栽培に成功。  定明寺の本堂が再建された。 若林 9代 鈴木三之助、有賀豊秋、誕生。
1791	寛政 3	井上正甫 <small>まさすけ</small>	源長院に松島家が寄贈した本堂が全焼。  再建された本堂は、柱普通、格天井なし、茅葺き屋根。屋敷を移築したか？  内藤弥市衛門久成家に青山忠俊が蟄居して家族家来 42 人同居した。  小林村屋敷へ転居するまでの 1 年間位。  5代 米保田屋 言誉白榮居士会、逝去。
1795	寛政 7		酒屋 中村市左衛門の古文書（助成講）に、都田村 龍洞院 7代帯屋（6代帯屋善助 1799 年没）記

1797	寛政 9		栩木夷白、誕生。
1799	寛政 11	井上正甫	初代・2代 和泉屋 木俣千代八の永代帳記帳始まる。6代 帯屋 天相榮地居士、逝去。
1800	寛政 2	井上正甫	内山真龍（遠江国風土記伝）完成。  藤木村 13石4斗5升6合（1両は令和3年現在価格で20万円・1石は20万円）
1803	享和 3	井上正甫	10代 平左衛門茂親の時代に分家。  竹山孫左衛門の次男竹山勝光、誕生、竹山梅七郎と従兄。三男は勝臣。10代 池田傳十、誕生。
1804	享和 4	井上正甫	笠井中町講、秋葉燈籠を建立。  石工・三州岡崎十王町・今井佐兵衛が制作した。  3代 加藤平四郎、誕生。
1806	文化 3	井上正甫	池田庄三郎勝彦 51歳、没。勝定 29歳。  13代 内藤弥市衛門徳明、没。（徳明の妻は池田庄三郎勝彦の妹）
1807	文化 4	井上正甫	池田勝定 30歳で家督を相続。

			<p>金指 4 代目 酒屋 中村市左衛門方章 22 歳は、地芝居の台本衣装貸本で歌舞伎の地方普及を広げた。奥三河、浜松、浜北と広範囲に商売をした。役者（ちょぼ）の手配もした。</p> <p>1840 年までの 33 年間で最も隆盛だった。帯屋に古文書あり。</p>
1808	文化 5	井上正甫 <small>まさすけ</small>	<p>2 月笠井村の中組と下組火事 50 軒焼失。</p> <p>1819 年も下組火事あり。池田庄三郎屋敷はどうなったか？</p> <p>遠江国 長上郡 美菌庄 奉再建八王子宮領護総氏子中 神主 神家三郎兵衛、</p> <p>大工 磯貝要蔵朝臣、神家 長兵衛勝吉、木挽 高林勘太夫、庄屋 山下佐治兵衛、</p> <p>組頭 神家権兵衛、池田庄衛門、山下才兵衛</p> <p>願主 榎吉佐治右衛門、高林又十、加藤清兵衛、永井伊三郎、榎吉伊兵衛、松下平五郎、池田徳三郎、竹内権八、池田長八 加藤平四郎。</p> <p>浜松の元魚町へ移転して橘屋 池田庄三郎勝定とした。</p> <p>関西米を浜名湖今切口、新川、入野を通して早馬の米蔵酒蔵に運んだ。(酒屋中村市左衛門方章様 頼母子手形古文書 7 代 帯屋善助)。 龍禅寺村 藤田善平 (10 代帯屋善助)、誕生。</p>

1810	文化 7	井上正甫 <small>まさすけ</small>	2代 山下吉十（小野治郎七）、誕生。
1811	文化 8		岡田佐平治、松島忠兵衛岱助、神谷森時、山中豊明、池田せい、誕生。
1812	文化 9	井上正甫 <small>まさすけ</small>	内山真龍 72 歳。羽鳥村 松島家から息子道真の妻をめとる、小栗廣伴 34 歳に仲立を頼む。 真龍 80 歳、祝賀に廣伴を招待。
1813	文化 10	井上正甫 <small>まさすけ</small>	初代 山下吉十の長女はつ誕生。家訓で、第一子が家督を継ぐ。
1814	文化 11	井上正甫 <small>まさすけ</small>	池町 芳鮮寺の豪華な本堂と庫裏を寄贈した。 池田庄三郎勝定 37 歳。恒武村 小栗松藹、誕生。池田むろ、誕生。
1816	文化 13		長男 得寿（保田屋重兵衛）、新家に出る。新村里助、誕生。
1817	文化 14	水野忠邦	9 月就任 28 年間。佐賀県唐津より来た。 江戸城で出世する目的で老中となるが、浜松城下では家老任せで財務が遅れる。 9 代 榎吉勘三郎重廣（子育て地藏尊）建立。福山滝助、誕生。
1818	文政 1	水野忠邦	竹山梅四郎、3 代 木俣千代八、誕生。

1819	文政 2		6代 米保田屋 還誉浄安通證居士、逝去
1820	文政 3	水野忠邦	和泉屋の永代帳の取引先は、平口、東美菌、小林、中瀬、宮口、二俣、阿多古、万斛、漆島。 賃織取引を始める。龍禅寺村の藤田善平 12歳は橘屋へ丁稚小僧となる。 水野忠邦の米問屋御用達（若森長右衛門、木綿屋 権左衛門、橘屋 池田庄三郎 勝定 43歳） 4代目 中村藤吉 30歳で家督を相続。番頭 中村弥助（12歳から37歳まで藤吉を助ける）。 小間物、荒物、履物、文具を扱う。4代目は浜松で報徳商人として大成する。
1821	文政 4	水野忠邦	松島茂岡は（有馬紀行）出す。和泉屋千代八は、笠井市で賃織りの綿布を販売する。
1821			小山みい、16代 内藤弥一右衛門隆弥、7代 帯屋 緑装道因居士、逝去。
1822	文政 5	水野忠邦	山下才兵衛（俳号 昇山）、誕生。
1823	文政 6		稲垣久兵衛（藤木様）、誕生。
1824	文政 7	水野忠邦	山下佐次兵衛（貢の父）、誕生。幕末から明治二欠けての最後の庄屋。屋敷を売却した人。
1825	文政 8	水野忠邦	4月 遠江国長上郡笠井村 住吉明神 神主 山下隼人。

			藤原貞伸着、風折、烏帽子、狩衣、神道裁断状を許可される。 神谷正信、藤井三郎四（濱吉の父）山形屋の創始者、誕生。
1826	文政 9	水野忠邦	（榎吉文書）笠井村 155 戸。河西縞は笠井の市で取引された。 笠井の庄屋 山下菊次郎。組頭（勘三郎、庄兵居、権兵衛、才兵衛） 春日大明神 神主 神谷平三郎。雷・住吉大明神 神主 山下菊次郎。 4 代 加藤平四郎（加藤儀八の兄）、小野江善六、池田勝道、誕生。
1827	文政 10	水野忠邦	奉再建 春日神社大明神鳥居。 庄屋 山下佐治兵衛。組頭 山下才兵衛、神谷権兵衛、 願主 池田庄兵衛、榎吉佐治右衛門、島田嘉衛門、高林善十、鈴木清六、吉田弥七、松下仙五郎、 池田長八。
1828	文政 11	水野忠邦	松下伝八（松下薬局）、松下亀吉、初代 加藤儀八、野末九八郎、夏目喜平、誕生。
1829	文政 12		伊藤七郎平、誕生。
1830	天保 1	水野忠邦	神谷與平治森之の三女ちよ（正信の妹）稲垣久平に嫁ぐ。 その子供が、帯屋 三代継ぐ（稲垣やす、稲垣菊、岩井幸一）

			<p>帯屋に異変あり 3月16日八代居士 没。帯屋7代暮芳栄春居士 逝去。</p> <p>榎吉陽平、寺田源次郎、誕生。</p>
1831	天保2	水野忠邦	<p>6月3日八代大姉、6月16日九代妻が死亡。</p> <p>12月2日藤田善平、傳重の二女むろが、結婚して帯屋の両養子となった。</p> <p>池田傳十家は帯屋の本家となった。森町 福川泉伍、笠井村 中和茂平、誕生。</p>
1832	天保3	水野忠邦	<p>池田勝定 55歳 隠居。池町芳鮮寺（浄土真宗大谷派）で念仏三昧。</p> <p>橘屋 池田庄三郎勝光 29歳は豪商となってゆく。</p> <p>金原明善、10代 中村五郎七、竹原弥吉、伊東磯平治、笠井辯通、寺田長三郎、誕生。</p>
1833	天保4	水野忠邦	<p>4年から10年まで飢饉続いた。</p> <p>90万人が餓死。田畑質入れ、娘身売り、本百姓没落、百姓一揆が起きる。</p> <p>羽鳥村（中家古名簿）池田庄三郎は元魚へ移転の記事あり。</p> <p>松島良治茂岡（国学者）が松島家の歴史を清書した。</p> <p>池田弥重、加藤清兵衛（實次郎の父）、10代 松島清八郎、斎藤源三郎、誕生。</p>

1834	天保 5	水野忠邦	米商人の買い占めで百姓一揆が起きる  恒武村 仁右衛門、笠井 丸一屋，惣太郎。松屋徳三郎、上石田村 彦左衛門。常蔵を手先として三千俵を高値で売った。(内山真龍文書)。3代 鈴木清六 (妻は金原明善の妹 加賀)、誕生。
1835	天保 6	水野忠邦	金指酒屋中村市左衛門と帯屋との古文書あり。司馬老泉、池田為吉、寺田平太郎、前島密、誕生。
1836	天保 7		松島授三郎、徳川慶喜、誕生。
1837	天保 8	水野忠邦	2月大塩平八郎の乱。  10代 池田傳十 (53歳の時福来寺観音堂移築発起人)、宇田彦三郎、井上正直、誕生。
1838	天保 9		池田仁三郎 (池友)、誕生。
1839	天保 10		3代 山下吉十、稲垣さわ、高林善次郎、大木元次、小倉助一、岡田良一郎、誕生。
1840	天保 11	水野忠邦	ペリー来航。4代目 木俣千代八、5代 中村市左衛門方掌、誕生。
1841	天保 12		山下清七、岡本太郎平、大木菌作、誕生。
1842	天保 13	水野忠邦	池田善平は帯屋善助を継ぐ。山下才兵衛は竹細工指物師大工彫刻に優れていた。

			大橋丑平、神谷伊代吉、誕生。
1843	天保 14	水野忠邦	天保改革に失敗し忠邦は老中罷免された、8月 池田勝定 66歳 没。 青島忠平、島田源五郎（辻屋）、小杉善十、津倉けい、誕生。
1844	天保 15	水野忠精	木俣くら、松下仙四郎、石津石松、小倉対次郎、山下善吉、松島新平、平井重蔵、誕生。
1844	弘化 1	水野忠精	神主隊組織。水野忠邦は借金を返済できず浜松から出られない。
1845	弘化 2  弘化 2	水野忠精  井上正春	9月から11月まで忠邦長男 忠精が浜松城主。 御用商人への借金返済を正春が仲立して、忠邦は浜松から転居した。 11月正春は、館林の結城縞、千筋、萬筋、毛萬筋の技術を導入し商品化。 絹と蚕、東北の桑を植えた、茶蜜柑柿を奨励、楮を栽培して製紙業を起こし財政の立て直しを行う。 小山みいは、その技術を習得し後輩に伝授した。 今井兼吉（常田屋）、山下小平（上組山下髪結）、源馬房次郎、生駒和平、誕生。 7代 米保田屋、逝去。
1846	弘化 3	井上正春	16代 内藤市左衛門 隆弥 家督相続（小栗仁右衛門 四男）。

			<p>浅田勇次郎は神谷與平治森之と万人講で会う。</p> <p>松下仙五郎、小栗五平（米五）、2代吉十の長女まち（山下清七と金物保田屋）、白瀬仁平、誕生。</p>
1847	弘化 4	井上正直	<p>4月に就任。</p> <p>3月に安居院庄七 59歳、神谷與平治森之 67歳、長男森時 37歳、五男正信 21歳が報徳思想の講義聞く。下石田村同志 11人で下石田報徳社を創立した。</p> <p>4代 島田勘平（酒醸造、笠井銀行）、高林幸七、白瀬源七、伊藤宗平 誕生。</p>
1848	弘化 5	井上正直	<p>牛岡報徳社創立、岡田佐平治。渡瀬友三郎（三遠農学社社長）、山田虎吉、大橋太十、誕生。</p>
1848	嘉永 1	井上正直	<p>笠井新田村 春日神社焼失。</p>
1849	嘉永 2	井上正直	<p>笠井村下組 33軒。 総代 利助、次右衛門、利兵衛、善六、仙六。</p> <p>庄屋 山下佐治兵衛。百姓代 善右衛門。組頭 清兵衛、仙五郎。</p> <p>新右衛門、平三郎、徳左衛門、宇左衛門、才兵衛、徳五郎、清左衛門、半之丞、又重、弥平、儀之助弥次右衛門、要蔵、治郎兵衛、万之助、佐七、善吉、文六、忠右衛門、源左衛門分は市の日を規制するように嘆願した。（渥美家文書）</p>

			<p>上組 1, 15 中組 10, 25 下組 5, 20。 <b>五・十の市</b>と呼ばれた。</p> <p><b>松島吉平 誕生 (十湖)。5代 加藤直次郎、池田徳平、松島竹七、誕生。</b></p>
1850	嘉永 3	井上正直	<p>7月 常光村、末島村は天竜川の洪水で流家、溺死、被害甚大。</p> <p>子安神社 破壊、49町浸水、家屋流失、人畜死亡あり。</p> <p><b>山下貢、池田嘉平、山葉寅楠、豊田為三郎、誕生。</b></p>
1851	嘉永 4	井上正直	<p><b>笠井村上組 百姓代 平四郎、組頭 仙五郎、</b></p> <p><b>総代 仙次郎、吉十、傳十、権兵衛、清次郎、善太夫、磯八、峯吉、平衛門。</b></p> <p><b>17代 内藤弥一右衛門大作、2代 加藤儀八、石神豊穂、富田久三郎、竹山謙三、石神安平、</b></p> <p><b>鈴木弥十、小倉友次郎、榎吉壮市郎、誕生。</b></p>
1852	嘉永 5	井上正直	<p>森町 報徳報本社 創立 (新村里助 37歳)。4代目中村藤吉は秋葉大権現の大鳥居建立。</p> <p><b>榎吉太八、鈴木浦八、松下長四郎、笠井辨秀、澤田寧、河内常太郎、誕生。</b></p>
1853	嘉永 6	井上正直 井上正直	<p><b>遠州七人衆</b>は尊徳と会見なる。神谷森時、岡田佐平治、新村里助。</p> <p><b>高林卯平、秋山佐吉、池田由太郎、平野又十郎、榎吉逸郎、山下昇山、竹内八十八、松島源十、</b></p>

			田辺万次郎、誕生。
1854	嘉永 7	井上正直	橘屋・池田庄三郎勝光（日本諸州長者番付）に載る。11月安政大地震。
1854	安政 1		山下太次郎（貢の弟）、青島市平、6代中村藤吉（棒屋）、山下春七、2代目山下重兵衛（東京へ行った人）、磯貝清吉、藤井和十、誕生。
1855	安政 2	井上正直	森町 福川泉五 24歳、米相場で富得る（古着、茶の貿易、製糸製材、綿を扱い豪商）となった。 藤井濱吉、市川秀太郎、森町 鈴木藤三郎、西村安太郎、藤井和助、誕生。
1856	安政 3	井上正直	遠州灘の米津に砲台完成。（石の砲弾は浪打ち際までしか飛ばなかったので脅しだった） 加藤徳次郎、加藤實次郎、川嶋松之助、寺田仁恵茂、石津鎌太郎、誕生。
1857	安政 4	井上正直	帯屋善助 51歳は桑名の米相場で、内藤家の米切手使う（借用証文あり）。 池田弥重 25歳と稲垣さわ 19歳結婚。鈴木新次郎、誕生。
1858	安政 5	井上正直	帯屋善助は桑名の米相場で内藤家の米切手使う（借用証文あり）。 帯屋弥重は魚の行商をして資金貯める 山下青厓、松下仙助、寺田友次郎、鈴木幸作、鈴木清（4代糶屋）、松島格太郎、誕生。

1859	安政 6	井上正直	帯屋善助は桑名の米相場で内藤家の米切手使う（借用証文あり）。39 両完済。
1859	安政 6		（稲垣久兵衛と神谷ちよが結婚）。阿多古の鈴木為吉は池田傳十の長女たかの婿養子と成る。 初代鍋屋島田嘉平、池田友次郎、水野久平、誕生。
1860	安政 7	井上正直	3 月 3 日桜田門外の変。三代山下吉十と津倉けいが結婚。
1860	万延 1		榎吉家に鈴木陽平入籍。（万斛鈴木権兵衛の息子） 3 月 15 日元号改元。5 月中瀬村、永島村、倉中瀬村の堤防が切れて浸水。 加藤伊久蔵、松島藤太郎、池田桂吉、小杉源八、誕生。
1861	万延 2	井上正直	7 月白鳥村、常光村の堤防が切れた。1 月 2 日 和泉屋為吉商店開く
1861	文久 1	井上正直	3 月 29 日改元。久米儀一郎（棟梁）、島田徳太郎 誕生
1862	文久 2	井上正直	遠州各地より笠井の市に商人が集まる。（青木家文書） 加藤清、伊藤豊太郎、竹原清太郎、小倉茂吉、門奈五郎作、鈴木清三郎、誕生。
1863	文久 3	井上正直	4 代山下吉十（糸保田屋・大正 8 年 56 歳没）、誕生。 宮本甚七（浜松財界の雄、八木橋周助の恩人）、誕生。

1864	文久 4	井上正直	遠州屋横浜で貿易商の金原久平、鈴木清六（妻は明善の妹）、川嶋清次郎、鈴木蘇三郎、
1864	元治 1		市川仁三郎、山下又八、岡田良平、誕生。2月20日改元。
1865	元治 2	井上正直	4月7日改元。5月1日改元。
	慶応 1		池田龍之助、山下藤吉（米保田屋）、大木保太郎、袴田源造、森田乙四郎、加藤弥太郎、誕生。
1866	慶応 2	井上正直	4月7日薩長同盟（坂本龍馬、中岡慎太郎）。小田直次郎が笠井村へ転居（青厓の父）。
1867	慶応 3	井上正直	12月9日大政奉還。15代徳川慶喜から政権を朝廷に上奏した。
			5代木俣千代八（笠井の木俣物産）、豊田佐吉、田村庫之助、5代島田勘平、加藤喜一郎、誕生。
1868	慶応 4	井上正直	2月正直は尾張藩と相談の上神官が勤皇に味方すると決まったので同意した。
			遠州報国隊 11代竹山梅四郎 50歳が52人の隊をまとめた。
			池田庄三郎勝光は軍資金1千万両寄附した。
			朝廷には11万両寄附した（祥瑞と名前で留守隊についた）。笠井庄屋山下貢も参加した。
			5月19日天竜川堤防が4134間決壊した。
			遠州平野一帯水害、家田畑が3ヶ月冠水した、明善36歳は建白書を出す。

		<p>6月11日倉中瀬120間、石原80間、中善地100間、堤防決壊した。</p> <p>石原村庄屋小栗清九郎の要請を受け、松島授三郎32歳、神谷正信43歳は庄屋から銭を農民の日当に出してもらい報徳手法にて、村全員で復興に当たった。</p> <p>中善地村 松島吉平19歳は、米蔵を開放して報徳の実践をおこなった。</p> <p>貴平下は泥化した河原を村井政一郎が報徳の実践で先頭に立ち村全員で復興。</p> <p>この逆流で（十湖池）直径100m、深さ20m渦を巻いて大きな池をとった。</p> <p>常光村 川合次郎八、中善地村 松島源八、貴平村 内藤隆弥、恒武村 小栗武右衛門、石原村 小栗清九郎、末島村 岡本伊兵衛、倉中瀬村 田地川五兵衛、羽鳥村 松島忠兵衛岱助が当時の庄屋。</p> <p>1月市野騒動 旧幕臣市野内匠でお屋敷様と大庄屋大村立左衛門（碇様）との騒動。明治3年山岡鉄太郎の裁断で解決した。9月井上正直は浜松城を去り、上総鶴舞へ移った。</p> <p>（米1200石と金1万8千両を3年間援助した。）</p> <p>10月23日明治天皇が即位。明治に改元。</p>
--	--	---

## 明治時代の笠井

西暦	明治	県令	
1869	2		<p>1月 浜松奉行 井上八郎。3月 中泉奉行 前嶋密。版籍奉還。10代近藤利用 36歳知行を返還。11代修用 18歳。廃仏毀釈（神徒に改宗）笠井若倭神社。</p> <p>福来寺の巻物（法永寺と定明寺の陳情の為書いた?）。関所廃止。</p> <p>11月16日笠井村600人が百姓一揆</p> <p>山下佐治兵衛屋敷破壊、火災発生、重要書類紛失、（宮口新栄印刷所蔵文書による）。</p>
1870	3		<p>金指大火で町の半分焼失。末島御嶽神社に栄徳霊神が鎮座。</p> <p>西村五太夫の弟子安太郎は笠井へ来て、漆工として笠井膳など製作して売る出す。</p> <p>郵便之法制度施行。</p>
1871	4	林 厚徳	<p>廃藩置県、浜松県。</p> <p>郵便全国均一、近代郵便制度施行（前嶋密<sup>ひまか</sup>）。</p>

1871	4	林 厚徳	<p>士農工商廃止／床屋、人力車、馬力、豆腐屋、油屋、蠟燭屋、下駄草履鼻緒、薬漢方家伝薬、菓子屋、魚屋、八百屋、米屋、呉服屋、古着屋、小間物屋、紙帳面大福帳、硯筆墨、煙草煙管煙草盆、足袋屋、仲買商、大八車、風呂桶屋など。</p> <p>帯屋は古着商から魚屋に転身した。福田湊から番頭と魚を仕入れた。</p>
1872	5	林 厚徳	<p>学制発布。戸長制（庄屋名主廃止）戸長 加藤直次郎、副戸長 榎吉太八、池田傳十、加藤清平。第一大区、八十二区、区長 副区長選出 小区長 山下重二郎。</p>
1873	6	林 厚徳	<p>地租改正令（金納地価3%）土地所有者と認定。源長院に羽鳥學校、恒武学校出来た。</p> <p>郵便荷物取扱所局格3等郵便局、榎吉陽平43歳。183戸人口781人、浜松天竜笠井担当。</p> <p>小区長山下重二郎 副区長・戸長 加藤直次郎、副戸長 榎吉太八、池田傳十、加藤清平。</p> <p>土地売買、賃貸借促進、商品経済、農村経済の大変動起きる。</p> <p>馬車笠井から浜松2往復。（立場は中町にあった）。福山瀧助は報徳遠譲社2660社員。活躍中。</p>
1874	7	林 厚徳	<p>小区長 山下重二郎、戸長 加藤直次郎、副戸長 榎吉太八、池田傳十、加藤清平。</p>
1875	8	林 厚徳	<p>池田弥十43歳（魚屋渡世）笠井村75番地、芝居興行書類提出。円正寺島田勘平敷地借用</p>



			<p>小区長山下重二郎、戸長榎吉太八、副戸長池田傳十、加藤清平。</p>
1878	11	大迫貞清	<p>郷社 服織神社に、西南戦争戦死者 3 名の招魂碑を松島吉平が建立。</p> <p>小区長山下重二郎、戸長榎吉太八、副戸長池田傳十、加藤清平。</p>
1879	12	大迫貞清	<p>第 1 回静岡県会議員選挙。松島吉平 28 歳、近藤修用 28 歳当選。</p> <p>小区長山下重二郎、戸長榎吉太八、副戸長池田傳十、加藤清平。</p> <p>撫松庵に句碑建立した（十湖）。</p>
1880	13	大迫貞清	<p>小区長山下重二郎、戸長榎吉太八、副戸長池田傳十、加藤清平。</p> <p>若倭神社世話人を選出した。</p> <p>上組加藤儀八 41 歳、山下吉十 41 歳。</p> <p>中組榎吉太八 28 歳、島田勘平 33 歳。</p> <p>下組青島忠平 37 歳、高林善次郎 41 歳。お祭りの件を協議。神輿の建設の寄附集め協議。</p> <p>9 月日 7 日 8 日木造御輿で始める。水車で、がら紡を杉浦仁平が始めた。</p>
1881	14	大迫貞清	<p>小区長 山下重二郎 戸長 榎吉太八 副戸長 池田傳十 加藤清平</p>

			<p>9月7日8日 木造御輿で渡御。 岡崎の岡崎文次郎に神輿を依頼し内金9円支払う</p> <p>引佐麿玉郡長に松島吉平就任した</p>
1882	15	大迫貞清	<p>小区長山下重二郎、戸長榎吉太八、副戸長池田傳十、加藤清平。</p> <p>太物物産社（共同仕入れ販売）</p> <p>理事長加藤平四郎、木俣千代八、源馬房次郎、墨岡忠四郎、鈴木源松、山下重平。</p> <p>山下重平は宮本宣吉の紹介状で、東京の森五商店まで徒歩3日かけて木綿を売りに行った。</p> <p>20反の注文受けたが1反織るのに数日かかるので、断りの詫び状を出す。</p> <p>これを機に甲州地方へも加藤伊久蔵、木俣千代八等が売りに行った。</p> <p>9月県令の許可を得て気賀神社内に（西遠農学社）を設立。</p> <p>社長 野末九八郎、副社長 松島授三郎、顧問 松島吉平郡長と近隣の篤農家が参加して開設した。</p> <p>郡長は10代目近藤利用の困窮を憂い有志と三百円集め沼津から気賀へ迎えた</p> <p>若倭神社の御神輿完成（230円支払う）。御仮屋新築7円40選1厘。糸儀一郎棟梁が建設した。</p> <p>総代6名。</p>

			<p>祭典世話人（年番）各町4名で12名参加、祭典日 9月6日前夜祭。7日渡御。8日還御。</p> <p>天狗・金棒・露払・高張・年番長・乙年番・砂蒔・太鼓・大鉾・小鉾・弓・矢方・丙年番・大櫛・氏子総代・伶人（雅楽）・箏篳・縦笛・横笛・神職。祭主 賽銭箱・白丁。年番・御神輿・輿脇4名・お供・甲年番・来賓・町民供の行列で渡御。</p> <p>祭典に関する費用は三町で分割して支払った。山車が神輿の後について引いた。</p>
1883	16	大迫貞清	<p>小区長山下重二郎、戸長榎吉太八、副戸長池田傳十、加藤清平。</p> <p>2月豊田橋開通 1470m。間口2尺。歩行者1銭、荷車4銭5厘で見付と笠井が流通した。</p> <p>9月6日7日8日、若倭神社祭典渡御・還御行。若連は山車を引く。</p> <p>12月10日笠井上組の火事109軒全焼。（別紙の通り）</p>